
同窓会だより

広報名簿部 部長 加藤 幸生
(歯学科29期)
小田島 あゆ子
(口腔生命福祉学科2期)

2025年度も同窓会としての活動が始まりました。前号からの同窓会の活動内容についてご紹介いたします。

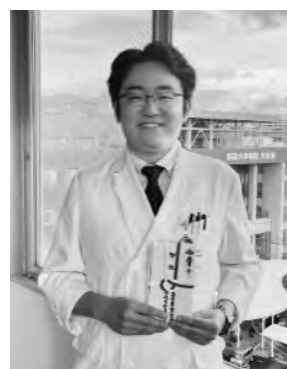
●退職された先生へのお祝い

3月で退職された前田健康教授（高度口腔機能教育研究センター、歯学科14期生）、川瀬知之准教授（歯科薬理学分野、歯学科15期生）、小林哲夫准教授（歯科総合診療科、歯学科17期生）、5月末で退任された瀬尾憲司教授（歯科麻酔学分野、歯学科16期生）に同窓会よりお祝いを贈呈いたしました。先生方のご健勝を祈念しております。



●新任教授へのお祝い

2024年11月に丹原惇先生（歯学科37期）が本学歯科矯正学分野の教授に、2025年4月に高橋直紀先生（歯学科36期）が北海道大学大学院歯学研究院歯周病学教室の教授に就任されました。先生方のご活躍を祈念しております。



●卒業生のネームプレート設置

新潟大学歯学部卒業生のネームプレートが設置されているのはご存じですか。歯学部4階、医歯学総合病院へ向かう渡り廊下に設置されています。2025年3月には歯学科55期生（50名）、口腔生命福祉学科18期生（25名）が卒業し、新たな一枚が設置されました。同窓生の繋がりを確認することができますので、歯学部を訪れる際にはぜひご覧ください。



●口腔生命福祉学科の卒業後の進路

口腔生命福祉学科では歯科衛生士と社会福祉士の2つの国家試験の受験資格を取得できます。1年次では教養科目、2年次からは歯科の専門科目、3年次からは福祉の専門科目が加わり、4年次では歯科および福祉の実習と卒業論文があります。歯科と福祉の両方を学ぶことによって将来の選択肢が広がる一方で、自分が目指す方向性に悩む学生も少なくありません。今回は口腔生命福祉学科の卒業後の進路についてご紹介したいと思います。

口腔生命福祉学科の卒業生の進路は就職が約9割と多く、行政（福祉・歯科衛生士・一般）、病院（歯科衛生士・医療ソーシャルワーカー）および歯科診療所への就職がほとんどを占めます。その他の就職先は福祉施設や企業（歯科・その他）などがあります。行政や病院への就職を希望する場合、歯科または福祉を選択する必要がありますが、両方の専門知識をもって地域住民の生活を支えることができるのは口腔生命福祉学科の卒業生ならではの特徴です。新卒で歯科または福祉のど

ちらかを選択したとしても、その後の転職で専門分野を変更した卒業生もいます。学生時代は同級生として横の繋がりが強いのですが、卒業後はそれぞれの専門分野に分かれるため同窓生としての縦の繋がりに助けられることもあります。自分と異なる専門分野の同窓生の話はとても刺激で、自分も頑張ろう！とモチベーションが上がります。

また、卒業後は進学する学生もいます。医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻では博士前期課程は2年間、博士後期課程は3年間の研究活動を行い、学位論文を完成させます。研究に専念する一般の大学院生、または日中は社会人として仕事をしながら勤務後や休日に研究する社会人大学院生という選択肢があります。大学院には長期履修制度がありますので、社会人と大学院生の両立も可能です。

口腔生命福祉学科の卒業後の進路について、いかがだったでしょうか。同窓生の情報を参考にしつつ、学生の皆さんが4年間の大学生活で学んだことを糧に自分の道を切り開いていただければ、これからも応援しています。
